

## 令和元年度 学術振興基金助成による成果報告書

令和元年 11 月 12 日

学 長 殿

所属部局・職名 人間発達文化研究科

申 請 者 名 木村 幸登

助成事業の区分	<p>いずれかにチェックしてください</p> <p>研究協力に関する事業 (<input checked="" type="checkbox"/>学会参加)</p> <p>学術振興に関する事業 (<input checked="" type="checkbox"/>学生 <input type="checkbox"/>事務職員)</p>
事業名	日本教育実践学会 第 22 回大会 (於：鳥取看護大学)
事業実施期間	令和元年 11 月 2 日 ～ 令和元年 11 月 3 日
成果の概要	<p>本研究は指導教員である佐藤佐敏教授との共同研究として発表した。発表者は木村である。</p> <p>題目は「授業の「まとめ」における暗唱の効果」である。研究の概要は次の通りである。</p> <p>学習内容の定着を図るためには、学習用語を習得し使いこなせることが重要である。しかし、学習用語を正確に習得、活用させることを意識している教師は少ない。筆者は、学習用語を用いて授業の学習内容を整理する「まとめ」に着目した。具体的には、授業の「まとめ」で学習用語を暗唱させるという手立てを提案する。この手立ての有効性を検証するため、俳句の授業を組織し、学習内容の中から特に習得させたい「俳句の特徴」を整理し、これを暗唱させた。授業の後日、「俳句の特徴」を想起させるテストを行い、これを質的・量的に分析した結果、授業の「まとめ」で学習用語を暗唱させることの有効性と課題が明らかになった。</p> <p>全国規模の学会での発表を通し、その成果を報告するとともに、多くの質問や意見を頂戴した。</p>